

黒竜江省訪問記

新潟県農地部長 小林 厚司

平成21年11月16日から18日の3日間、森副知事を団長とした新潟県黒竜江省訪問団の一員として、中国黒竜江省ハルビン市を訪問した。

今回私が訪中に参加した目的は、土地改良事業の分野における黒竜江省の現状と今後の技術支援の方向性について協議することであった。

新潟県に来て3年、新潟空港に行くのが初めての私にとり、海外はもとより国内の移動ですら飛行機を利用したことがなく、まして海外出張なんてと、内心は大いに不安であった。しかし飛行機に乗ってしまうと新潟空港からハルビン空港までは2時間30分。あっという間に到着、新潟と黒竜江省の近さに改めてビックリ。途中、日本海上空は厚い雲がたれ込めており何も見えなかったが、中国大陸に入ると眼下には雪に覆われた荒涼とした原野や畑がどこまでも続いており、旧満州の冬の厳しさと国土の広さを実感した。通関手続きもそれほど時間はかからず、中国南方航空が新潟ーハルビン間を週4便運行していることから、国内の移動に比べても大して変わらない感じで海外旅行ができ、結構お勧めではないかと思った。



荒涼とした大地
(飛行機からの写真)

空港から最初の訪問先である完達山乳業株式会社へ。まず驚いたことは、市内を走る車が立派なこと、にもかかわらずタイヤはノーマルであること。雪が降った後は危険だと思っていたが大丈夫との言。理由は11月のハルビンの気温は日中でも氷点下10度くらい、朝晩は氷点下20度くらい、従って雪は解けず、まるで白い埃が道路を舞っているような感じでノーマルタイヤでOKとのこと。中国の冬は極寒であり、日本の冬とは全く違うことを実感した。

完達山乳業株式会社は、中国屈指の乳製品の手元メーカーであり、資本金250億円、売上金450億円、従業員13,000万人の大企業だ。中国の乳製品工場と聞くと、粉ミルクのメラミン混入問題を思い起こすが、そのこともあって説明は如何に衛生上気を配っているか、安全性をPRしていた。ちなみに試食品としてヨーグルト、牛乳、水が各種用意されており、先方からしつこく進められるのでやむを得ずイチゴ味ヨーグルトを試食。その後の体調が心配で味は覚えていないが、特に体調を崩さなかったのでホッとした。

私の中国に対するイメージは、社会主義体制なので競争がないことから、サービスの概念がないのではないかと考えていたところ、中国美人の女性が笑顔で工場内を案内してくれ、製品の説明をしたり試食品まで用意してくれる。工場内の説明でも如何に他社の製品に比べ品質がよいか、安定供給に適しているかなど自社製品の売り込みに力を入れている姿を見るにつけ、自分の固定化した中国像が大きく変わった。

次ぎに完達山乳業株式会社の視察を終え宿泊先のホテルへ。この企業は開発区というハルビン市の郊外に位置しており、一面雪に覆われ、どこまでも続く広大な大地の冬景色だった。車に乗りながら大陸に沈む夕日を眺めていた。きっとここは春から秋にかけては緑豊かな大地なのだろう。日本では新潟が広大な農地を有する地域の代名詞だが、スケールの違いを改めて感じた。

開発区からホテルまでの道路は、高速道路が整備されており、開発区に進出した企業の従業員の多くは、ハルビン市内から通勤しているとのこと。さらに目を見張るのは、ホテルに近づくに従い、道路が渋滞してくるとともに近代的な高層ビルが林立しており、とても発展途上国の街とは思えない。この高層住宅が企業の従業員の住まいらしい。昔ながらの自転車に乗った人やロバの荷馬車はたまに見かけるが、ほとんどの人は車、それもそんなに古い車が多いわけではない。通りには車のディーラーが店を構え、ショーウィンドウには新車が並んでいる。先進国の光景と変わらない。人々の服装も日本の服装とほとんど変わらない。本当にここは発展途上国の地なのかと疑いたくなる光景である。



高層ビルの建ち並ぶ市街地

ホテルの従業員も先進国並みのサービス、そして丁寧さにここでもビックリした。これまで何カ国かの発展途上国を見てきた私にとって、中国のめざましい発展の要因がこうした些細なことにもありそうな気がした。

夕方、黒竜江省の杜家毫副省長を表敬し、晩餐会に出席。ホテル内で行われた晩餐会には、杜副省長、張教育長ほか外事弁公室（国際部）の職員各位が出席。乾杯は白酒（バイチュウ）という度数50度というコウリャンから作った黒竜江省の地酒で、無色透明な酒を小さなグラスに注ぎ合って乾杯のかけ声とともに一気に飲み干し、空いたグラスを相手に見せるのがマナーとか。飲んだ瞬間喉が焼けるように熱く感じ、きつと体には良くないだろうなあと思いながら、郷に入り手は郷に従えの諺の如く、注がれるままに飲み干し積極的に懇親を深めてきた。この極寒の地に合った酒だからこそかもしれないが、結構美味かった。あれだけ強い酒を飲んだので、翌朝は二日酔い間違いなしと覚悟をしたが、幸いにも大したことはなくホッとした。他には地ビールのハルピンビールもあったが、日本のビールに比べかなり軽い感じがした。これはバイチュウと比べればどんな酒も軽く感じたのかも知れません。



冬の松花江

市街の中心は中央大街と呼ばれるところで、石畳の道路やロシア風の建物が建ち並ぶ繁華街だ。残念ながら今回は時間がなく、市内をゆっくり見て回る機会はなかったが、ハルピンはロシア文化の色濃く残っているところで、市内のあちこちにロシア風の建物残り、聖ソフィア大聖堂などが有名である。

また街の真ん中にひとときわ高いテレビ塔が聳え立っているが、東洋一の高さ誇り東京タワーより3m高い336mとのことであった。

一方で、翌早朝、氷点下20度近くの極寒の中、フル装備でホテル近くの松花江に沿った道を散策した折、発展途上国らしい側面も残っていることを感じた。まず道路に積もった雪は、除雪車ではなく人力による除雪がなされていること、信号はあるが歩行者は信号を無視して至るところで横断すること、車は決して譲らず車線変更は強引な割り込みが当たり前、にもかかわらず事故が少ないのはハルピン流の秩序なのかもしれない。その他高層ビルの建築現場を見ると、足場は木製が多く、気温が上がらないところでも十分な養生もせずコンクリートを打設している。

また、零下20度近い寒さの中、人々がバレーボールや羽の付いた球を地面に落とさないよう足で蹴り上げるまるで蹴鞠風はねつきのようなスポーツに興じる姿は、中国の一般市民の姿だと感じた。我々に見せようとする発展著しい着飾った中国とこうした庶民の日常が語る普段着の中国とのギャップが現在の中国の真の姿なのかもしれない。

2日目はまず開発区管理委員会を表敬訪問。ここでは黒竜江省への企業誘致について、話を聞き、その後、中国発展の第一線を見てきたが、外国企業の誘致を積極的に進めているとのことで、原野を切り開き、大規模な開発区を造成していた。既に国内の大手企業の他外国企業も進出しているところもあり、まさに発展途上の中国の姿を見た気がする。

午後は黒竜江大学やハルピン医科大学などが建ち並ぶ新興市街地を訪問。ここに糸魚川ラーメンを出店するとのことで、改装中の店内を視察。ラーメンの本場にちょっと高級な新潟ラーメンの店となるが、中国人の評価は果たしてどうか楽しみなどところである。

その後、森副知事と黒竜江省水利科学研究院を表敬訪問し研究施設を視察。当方からは本県の農業農村整

ハルピン市は人口約1,000万人の大都市だ。市内を流れる松花江は流量が2,400m³/sと利根川の平均流量の約10倍の流量がある大河。そのほとりにある宿泊地シャングリラホテルからの眺めは、本当に美しかった。ホテルの窓から見える松花江大橋の夜景は、全面結氷した川に架かる橋を七色に光の色が変化するイルミネーションが彩る、とても幻想的なものだった。



賑わう中央大街



厳冬の市内

備事業の概要を説明。先方からは研究院の研究内容等について説明を伺った。説明によると、この研究院は中国で最も充実した農業土木に関する研究施設であり、広大な面積を有する農場、ドイツ製の大規模なライシメーターをはじめ近代的な施設を有し、様々な研究が行われている。現在の重点課題は3つ。かんがい、凍土、土壌をテーマに研究しているとのこと。具体的には黒竜江省の農業は主にとうもろこし、大豆、米を栽培しているが、降水量は年間380mmと少なく、6月～7月に集中的に降ることから、水を蓄えるダムの研究に携わるとともに農作物の生産増大を目指し土壌の研究も重点的に行われており、また凍土の研究は極寒の地ならではの研究であると感じた。新潟県との関係では、早川典生先生（NPO 水環境技術研究会理事長）との間で技術研究が行われているとのこと。本県も今回の訪問を契機に技術協力を行う用意がある旨伝えた。今後、農地部と水利研究院の上部機関である水利庁との間で技術協力の話が進むことを期待したい。



水利科学研究院研究施設

今次の黒竜江省出張を通じ、新潟県と黒竜江省の友好関係が更に深まるとともに、農業分野における農地部と水利庁との新たな協力関係が構築できれば幸いである。

農地・水・環境保全向上対策研修会を開催しました

農地建設課

11月25日（水）に新潟テルサ（新潟市中央区）において、活力ある農業農村づくりに取り組んでいる活動組織の取組のステップアップを目的として、「平成21年度新潟県農地・水・環境保全向上対策研修会」を開催しました。

県内の活動組織構成員及び関係機関の担当者等、約1,000人が参加し、模範となる活動組織の表彰及び取組事例の紹介、有識者による講習、講演を行いました。



優良取組表彰の様子

優良取組表彰受賞組織（8組織）

最優秀賞	根岸地区保全会（新潟市） しもはらしんでんみどり みず まも かい 下原新田緑と水を守る会（南魚沼市）
優秀賞	発久エコチーム（阿賀野市）
奨励賞	エコスマイルたかき（燕市） こぐりやままち 小栗山町ホテルを守る会（見附市） かんきょうほぜん おおこうづ 環境保全「大川津ネット」活動組織（長岡市） よし いちくしげんほぜんかい 吉井地区資源保全会（柏崎市） ふじまきちいきかんきょう まも かい 藤巻地域環境を守る会（上越市）

優良取組表彰・事例紹介

昨年度取組の879組織の中から県内各地域協議会の推薦を経て審査委員会で選考された8組織を表彰し、最優秀賞の2組織が取組状況を紹介しました。

講習「新潟の田んぼの生きもの」

講師：(株)グリーンシグマ

環境調査室 室長 山浦知雄

新潟の田んぼやまわりに生息している生きものの種類（在来種、外来種）や観察のポイントを講習していただきました。

講演「より良い地域づくりに向けて」

講師：NPO 法人 TEAM 田援

代表理事 筒井義富

農地・水・環境向上対策を通じた地域活性化の手法について、計画やひとづくりのポイントを講演していただきました。



講習テキスト
「いいたた田んぼの生きもの
ハンドブック」



筒井氏の講演

研修会の資料、ハンドブックは県農地水ホームページで公開されています。

<http://www.pref.niigata.lg.jp/nochikensetsu/1239739306690.html>